

隼人塚

指定日：大正 10 年（1921）年 3 月 3 日

所在地：鹿児島県霧島市隼人町内山田 265-3

隼人塚は小さな丘の上に、五重の石塔が 3 基、それを取り囲むように四天王像が 4 体立っている史跡で、およそ 1000 年前の仏教遺跡だと考えられています。

もともと、古代南九州の住民である熊襲・隼人の墓だといわれていました。奈良時代頃、南九州に住んでいた人たちは隼人と呼ばれていましたが、当時の朝廷に反発し、度々戦いが起こります。特に養老 4 年（720）には大規模な戦いが起こり、霧島市の国分平野が最後の戦場となったと考えられています。このことから、隼人塚の建立目的は、戦いで死んだ隼人の供養のためだと長らく考えられてきました。

発掘調査などの結果、この隼人塚は今からおよそ 1000 年前の平安時代後期に建てられたものであるということがわかりました。建立理由はいまだはつきりしませんが、近年では正国寺というお寺の跡だと考えられています。

以前は下の写真のように石塔は完形でなく、四天王像のうち 2 体は半分埋まった状態でした。その後、発掘調査で石塔の部材などが発見され、平成 10 年から 11 年の復元工事によって現在の形へ整備されました。

石塔それぞれの四面には様々な姿の仏が刻まれ、仏の世界が表されています。それを邪悪なものから守るために、鎧に身を包み、武器を持って邪鬼を踏みつけた四天王像が守ります。

